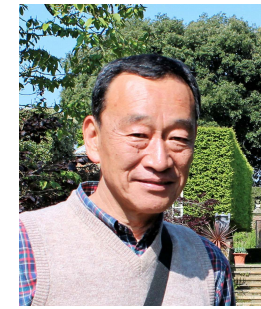


神辺須 徹さん 機械工学科 1971 年卒業



◆ 経 歴

1971 年 4 月	株式会社リコー入社 電子機器事業本部電子機器営業部配属
1974 年 4 月	神奈川リコー派遣 電子機器営業部
1981 年 4 月	株式会社リコー 販売事業本部販売計画部
1998 年 4 月	株式会社リコー 福岡支店福岡営業部長
2004 年 4 月	リコー九州株式会社 副社長
2005 年 4 月	株式会社リコー 人材開発センター長
2006 年 1 月	リコー販売株式会社派遣 販売戦略本部長
2010 年 4 月	リコージャパン株式会社派遣 人材開発本部長
2012 年 12 月	株式会社リコー退職

◆ 本人コメント

1967 年 4 月入学式の翌日、先輩の皆さんに誘われて部室へ、優しそうな眼差しと適度なオタク具合に惹かれ鉄道研究部への入部を決意いたしました。時あたかも国鉄の動力近代化の波が押寄せ、幹線の電化や地方路線を含めた無煙化が急速に進展、残り少ない SL の雄姿をカメラに収めるべく鉄道研究部での 4 年間は全国の SL を撮影して回りました。

大学生活も残り一年、就活準備の最中、同僚から「リコーを受けるつもりだけど、付き合ってくれない!？」とのお誘い、まずは経験と思い付き合ったのがいけなかったようで意外にも採用通知が来てしまいました。ご指導いただいた溶接研究室の柴田教授からも「リコーならハンダ付けぐらいはあるだろう!」と肩をたたかれ、しぶしぶリコーへの入社を決意しました。

入社後に配属されたのは電子機器事業本部 電子機器営業部(コンピュータのデータ作成端末の販売部門)、全社の 10%の売上規模ではあるものの端末機分野ではトップシェアを誇る部門に配属され仕事人生(営業活動)がスタートしました。営業の対象となるお客様のほとんどはホストコンピュータを持つ大手企業や官庁の電算室、コンピュータ処理の内部に入った技術的な打合せが商談の中心になることでもあり、人見知りの私でも人並みの営業活動が行えました。

そうこうするうちに昭和 48 年に公衆回線の開放が施行され、オンライン化、データ交換の磁気媒体化が急速に進展、オフライン端末の私達の居場所は急速に減少、事業の方向も端末市場から小規模企業の初めての電算化を支援するオフィスコンピュータの販売に軸足を変えることになり営業活動も大きく変化せざるを得なくなりました。

入社 10 年、売上予算に追われる毎日、大学時代の専攻や趣味の鉄道などすっかり忘れ大切なカメラやレンズにはカビが生えてしまったその頃、突然の本社スタッフ部門への異動が発令されました。

コンピュータ分野の販売促進、発売準備、教育など多岐にわたる業務に携わることになり、10 年間の営業実体験を踏まえて自信を持って業務を遂行することが出来、営業職とは違うやり甲斐も芽生えはじめたことを覚えています。またこの時期は製品のみならず社内すべての業務の品質向上の動きが活発になり、品質管理担当との人脈も広がってきたのですが驚いたことに活動指揮の中心をなしていた方達が副社長以下武蔵工大卒、そして皆が経営工学専攻でした。少し心にも余裕が出来、帰宅時に新橋駅を通過する博多や長崎行きの寝台特急を憧れの目で見送ったり SL の走る大井川鉄道や北海道への家族旅行などでは眠っていた鉄道ファンの血が再燃し始めました。

1980 年代も後半に入ると我が業界にもデジタル化の波が急激に訪れ、事務機(コピー等)もネットワークの入出力端末として大きく変化、営業現場においてもコンンピュータネットワークによるソリューション提案など営業活動の高度化が急務になりましたが全国一万人近くいる営業の体質改善など一朝一夕に出来るものではなく、本社の思いと現場の実態に解離があることに大きな課題を感じながらの毎日でした。

1990 年代後半、希望していた営業現場への復帰、福岡支店の営業責任者への異動が発令されました。

リコー福岡支店は創業者が佐賀、当時の会長が鹿児島出身で何となくプライドが高く本社からの転勤者を受入れない雰囲気がありいろいろ先輩にアドバイスをいただきながら赴任しました。福岡支店は福岡から沖縄の 8 県を担当、国内売上の 10%(約 600 億円)を担う地方市場、頼りにしていた支店長は心臓病でリタイアというアクシデント、土地勘もなければ系列販売会社やお取引店の幹部、協業を組むコンピュータメーカーやソフトベンダーとの面識もなく、何よりも支店業務そのものにも疎いなかでベテランの部下 100 名に支えられ、たどたどしく業務スタートとなりました。

営業部長の業務内容は多岐にわたり、地域戦略策定・展開、大手顧客への商談支援、各地の商談イベント開催、取引先・アライアンス企業との協業推進、地域財界トップとの交流、東京本社での会議やイベントへの参加等々、九州沖縄の北は対馬から南は石垣島まで東奔西走、加えて夜は取引先接待に明け暮れる毎日という超多忙ながらも充実した日々を過ごしました。そんな毎日のなかでの息抜きは仕事の予定のない週末に SL 撮影に出かけること、阿蘇外輪山を登る豊肥線の「SL あそ Boy」、球磨川沿いを走る肥薩線の「SL ひとよし」、本州に渡って山口線の「SL やまぐち」等の観光列車の撮影を四季折々の中で楽しみました。

また、地域の祭への参加や屋久島の縄文杉見学など一生の思い出も数多く作ることが出来ました。

7年間の福岡勤務の最中、本社では国内販売体制の大変革構想が検討され、県別販売体制から全国統一の販売体制への移行が具体化、私にも本社への異動が発令され、「心に小さな達成感と脛に5つの傷」を持って未練たっぷりで東京に戻りました。

東京に戻って販売体制一本化への第一ステップ首都圏・関東圏 10 県の販売会社を統合しリコー販売が設立され販売戦略本部長に就任、九州時代の5倍の規模に面食らいながらも販売装置への大規模な先行投資や社員の人事制度改革を進めて全国統一販売会社「リコージャパン」の礎づくりを行いリコーの 42 年間の会社人生を終えました。

会社の OB 達から老後は「キョウイクとキョウヨウで豊かな老後の人生を築け!」と有難いアドバイスをいただき、さてどう生きるか? と思っていた矢先に町内会からのお誘い、軽く OK したのが運の尽き、それから 10 年ますます蟻地獄にはまって抜け出すことが出来ないでいます。OB 達からご指導いただいた「今日行く所と今日の用事」は町内会からたっぷり用意された毎日、副会長としての町内会活動では徐々にその存在意義が薄れていく町内会の立直しに取り組んでいます。地域住民を巻き込んだ民主的な町内会運営を目指し「地縁法人」の認可取得をスタートに営業部門で骨の髄まで浸み込んだ「顧客への価値提供の心」を町内会役員に徹底させることに意を注いでいます。

今の楽しみは博多の祭への参加と大学時代の鉄研先輩の皆様と行く普通列車での小旅行、旅行というより「移動型懇親会」でその話題はもっぱら健康・年。金・墓(?) _...、話題は尽きません。

◆ 写 真

- ・ 大学時代は夏にアルバイトで資金調達、冬に中国・九州地方へ、春は東北・北海道へ、ワイド周遊券を活用して夜行急行列車とユースホテル利用の撮影旅行



C62 重連の急行「ニセコ 3 号」札幌行
函館本線長万部駅出発 (1968.3)



深雪の宇津峠に挑む 9600
米坂線手ノ子～羽前沼沢 (1969.1)



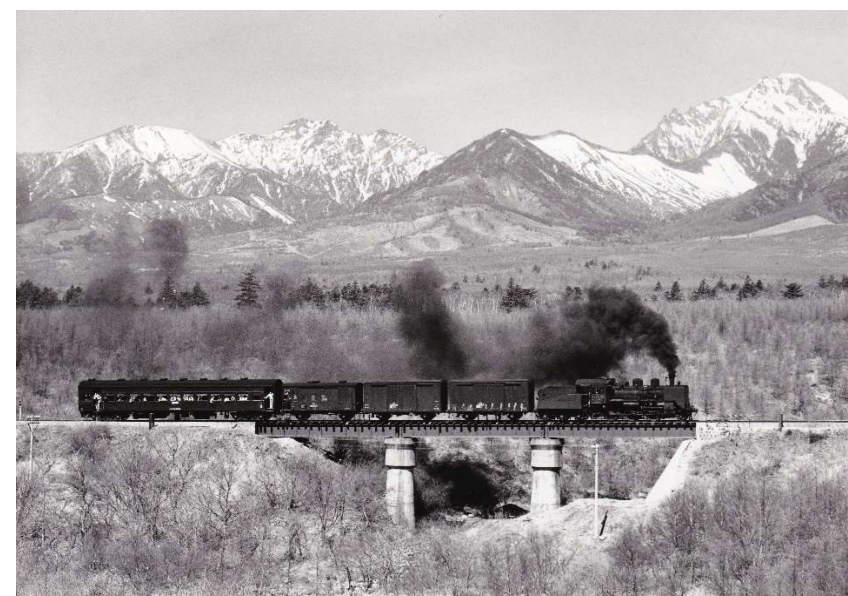
極寒の常紋に挑む 9600 と D51 の貨物
石北本線留辺蘂～生田原 (1969.3)



C59 牽引の急行「安芸」広島行
呉線 安登～安芸川尻(1969.1)



ボタ山をバックに走る石炭列車
筑豊本線 中間～筑前垣生(1969.1)



ハケ岳連峰をバックに走る「ハケ岳高原」
小海線 清里～野辺山(’71.4)

- 本社スタッフ時代は週末に勤務終了後羽田空港から札幌行最終便や上野駅から夜行列車利用の強行軍



能登に SL が走ると聞いて会社帰りに
夜行列車「能登」に乗って金沢へ
七尾線 能登中島～西岸(1989.1)



国内最強の C62 最後の力走「SL ニセコ」
羊蹄山の麓は撮り鉄で埋め尽くされた
函館本線 倶知安～小沢(1995.10)



釜石線を走る SL を撮りに花巻へ
真夏の山間を走る「SL 銀河ドリーム」釜石線
洞泉～陸中大橋(1996.7)



小樽から倶知安まで「C62ニセコ」に乗車する家族、それを撮影するためレンタカーで先回りの私、
想定通りの大迫力で通過する C62 と旧型客車 （撮影場所：函館本線 然別～銀山 1994.8）



妻の旧友の住む常呂から札幌に向かう途中
遠軽町丸瀬布の自然公園で走る軽便
SL「雨宮 21 号」に乗ったり撮ったり(1994.8)

- 福岡勤務時代は週末の起床時の天候で行先を決め、のんびり出発(山口線も豊肥線も自宅から 2 時間以内に到着しました)



新山口～津和野を走る「SL やまぐち」
津和野まで4か所、帰りは2か所の追い駆け撮影、
最高なのは津和野発車の汽笛からの数分間、
盛大に黒煙を吹上げて走る「SL やまぐち」が楽しめる
(山口線 津和野～船平山)



豊肥線の立野駅、珍しい3段スイッチバックの
急勾配を登る「SL あそ boy」、
大正 12 年製の 8620 が歯切れのいいドラフト音を響かせ
歩くような速度で登っていきます
(豊肥線 立野～赤水)



八代～人吉の球磨川沿いを走る肥薩線
風光明媚なこの場所を年に数回走る「SL ひとよし」、
SL 撮影というより心のリフレッシュとなりました
(肥薩線 瀬戸石～鎌瀬)



福岡勤務中の本人



博多祇園山笠

仕事を離れてから「流れ」という組織に属して
毎年7月には福岡へ行って山笠ムードにしています

